本の紹介

泉賢太郎著「数理の目で見る地球科学」，丸善出版，
138p，2026 年 3 月 25 日発行
3,000 円（税別），ISBN 978-4-621-31234-6

私は応援団を恐れている．自分が入学した高校がたまたまバンカラの気風を残していた男子校で，応援団の権力は絶大であった．入学直後の最優先事項は，校歌を含め十曲近くある応援歌をすべて空で間違いなく，かつ朗々と歌うことであった．それを鬼の形相の応援団員の前で，一人ずつやり遂げなければならない．ミスをしたり，歌詞が飛んでしまったりすると，（さすがに直接の暴力はなかったが）竹刀が目の前の机に叩きつけられたりした．入学早々，その儀式が始業 30 分前の日課であった．遠くの教室から徐々に応援団員が迫ってくるのを直立不動で待つ．その間の心臓の鼓動はいまだ記憶に鮮明である．

本書の著者泉賢太郎氏は大学の学部時代のすべてを応援団に捧げた．その様子は，『大学 4 年間を「応援」に捧げた私が古生物学者になった話』（泉，2025）に詳しい．その次の作品がここで紹介する『数理の目で見る地球科学』である．とてつもないギャップだ．

この本は，泉氏が教育学部に奉職しているからこそ生まれた書籍といえるかもしれない．自分の専門や得意・不得意を超越した広い分野を担当する必要に迫られるからだ．本書の記述によると，

「授業準備を進めるうちに，まずは著者自身が，否が応でも，苦手意識のあった数式を用いた議論に出くわすことになる．大学入学以降，かれこれ 10 年くらいは目をそらし続けていたが，授業を実施するとなると後には引けない．」

一念発起，研鑽を積むうちに徐々に面白くなる．

「紙とペンで計算し，自分自身で試行錯誤する．そうしているうちに，これまでは単に経験的あるいは暗記的に持っていただけの知識の背後にある原理が徐々に見えてくるようになってきた．」

ついには，「地球科学に対する自身の理解度は，数理の目で見ることを試みた結果，飛躍的に向上したように思う．そして，これまで以上に，地球科学が面白くなってきた．これは，著者にとってはまさにターニングポイントとなる体験であった．」という境地にいたる．

このように本書は，自身の苦手を克服し，新境地に至る経験をした著者が「数理の目で見る地球科学」のエッセンスをまとめたものだ．ここで試しに，ウェブサイトで検索するなどして，本書の目次を見て頂きたい．大気科学から，生物地球化学，堆積学，年代学，古環境学，固体地球科学に至るまでの広範囲を，数理の目で論じている．このような書籍がかつて存在しただろうか．

もちろん一読者としてはありがたい．私自身，「専門外だから」と言い訳をして，きちんと調べもせず天下り的に理解したことにしていた内容が，丁寧に説明されていて大変勉強になった．

それにしても，「応援本」「数理本」に限らず，近年の氏のアウトプットは質・量ともにすさまじい．正直にいうと，励みになるのを通り越して，落ち込むほどだ（学生さんには「他の人と自分を比べてはいけません！」と口を酸っぱくして言っているのにだ）．大学が異なれど，奉職学部が同じなので，担当している授業数にも大きな差はないであろう．意識しているかは別として，数理モデルを駆使して，自身のアウトプットの最大化をはかっているものと想像してしまう．

そして現在，氏は古生物学の応援団，地学の応援団を自認している．もちろん応援といっても私の高校時代とは異なり，洗練された手法をとっていることはいうまでもない．今回紹介した書籍に加え，古生物学の入門書の刊行，一般向けの講演会，図鑑・コミックの執筆・監修，セミナー，SNS 上での発信等々，分野全体を盛り上げる活動に熱心に取り組んでいる．

自分自身をも応援し叱咤激励し続ける氏の活動を今後も注視していきたい．

引用文献

泉賢太郎（2025）：大学 4 年間を「応援」に捧げた私が古生物学者になった話．理論社，東京，191p.

（茨城大学　伊藤　孝）

2026.06.08 **受付**
2026.06.09 **学会ニュースレーター公開**
2026.06.09 **学会ホームページ公開**